

グループワークⅠ

新見市で「医療・介護・福祉職として働きたい」と思ってもらうにはどうすればよいか

【教育】

- ・小・中学生の頃から医療・福祉のことを学ぶ機会を持つ
- ・資格研修する場所が欲しい
- ・学べる場がある
- ・地元愛を育てる
- ・専門職の質を上げる
- ・(楽しい)職場体験を実施
- ・実習生の心をつかむ
- ・新人教育体制の充実

【人材】

- ・新見は人がやさしい
- ・人間関係をよくする
- ・ハラスメントのない職場
- ・被災地からの受け入れ
- ・60歳から働きはじめる
- ・外国人の受け入れ
- ・人材派遣に補助金を出す(行政)
- ・職場環境を良くするためのチーム作りをする

【モチベーション】

- ・誰かの役に立っていると実感できる
- ・年に1回海外旅行に行ける
- ・遊ぶところが欲しい
- ・地元愛を育てる

【福利厚生】

- ・福利厚生の充実
- ・多様な働き方ができる。
- ・年間休日を増やす
- ・住宅環境の整備
- ・残業がない
- ・休みがとりやすい
- ・若者に手厚く
- ・子育て支援の充実
- ・住居の提供

【つながり・連携】

- ・横のつながりが強い
- ・病院・施設・地域の連携を強くして医療・福祉の質を上げる
- ・顔の見える関係がある
- ・顔を知っているので連携しやすい
- ・医療と介護が連携しやすい
- ・地域との関わりを大切にする
- ・多くの人とつながって働くことができる
- ・地域の人に寄り添う医療
- ・連携のしやすさがある
- ・多職種で集まる今日の様な会議がある
- ・行政・大学・各職種の連携を密にする
- ・新見公立大学の学生と連携する
- ・他職種と協働しやすい
- ・新見が小さいまちだからできる連携をアピール(岡山市、倉敷市などではできないこと)
- ・地域連携の図りやすい環境づくり

【発信・PR】

- ・夏ボラで魅力PR
- ・新見で働いてよかった体験
- ・人がやさしいことをPR
- ・多職種の仲が良いことをアピール
- ・地域医療の魅力を発信
- ・職種ごとに働き甲斐を伝える
- ・介護や福祉職が主役のビデオを新見市で作る
- ・インスタで発信
- ・ラッピングやくも
- ・みんなに来て欲しいとアピールする
- ・移住した時の援助をアピール
- ・市長が学校を回る
- ・若い人も年配者も楽しく働いていることを発信する
- ・イベント等をSNSで拡散する
- ・SNSで定期的な発信
- ・高齢福祉のメリット、やりがい、社会貢献を発信
- ・スキー、スノボ、温泉、ピオーネ、千屋牛、食べ物おいしいなどアピール
- ・新見の魅力を伝える

【まちの環境】

- ・住みたいと思えるまちづくり
- ・研修先が遠い(岡山など)ので、近くで研修が受けられる
- ・住んで楽しい
- ・まちに魅力を
- ・娯楽施設を増やす
- ・コンサートや映画を誘致
- ・遊べるところが欲しい
- ・施設を新しくする
- ・ものすごく大きい病院をつくる
- ・交通の便が良い
- ・地域連携が取りやすい環境づくり
- ・子育て支援の充実
- ・銀座通りを人が集まるように
- ・若い人の交流の場をつくる
- ・介護保険等のサービスの充実、施設のサービスの充実
- ・田舎ならではのゆったり感
- ・医療が充実してほしい
- ・新見市は小さいまちなのでチャレンジしやすい

【職場環境】

- ・残業が少ない
- ・職場がきれい、新しい。
- ・通勤しやすい
- ・人間関係がよい
- ・相談しやすい上司がいる
- ・信頼できる上司がいる
- ・カスハラ対策がしっかりしている
- ・ハラスメントのない職場
- ・休みが取りやすい
- ・新人教育体制の充実
- ・地域密着の職場環境
- ・安くて素敵なアパートの提供
- ・家族に介護が必要になった時休みが取れる
- ・土日の休みが取れる
- ・職場環境を良くするためのチーム作りをする
- ・明るい職場になる
- ・新人指導の充実
- ・資格を取らしてあげるしくみ

グループワーク II

災害時、それぞれの立場(職場)でどう動けばよいか

病院

《医師》

- ・避難所を回る
- ・統括 DMAT に報告

- ・入院調整、転院調整
- ・物資調達
- ・院内応援
- ・受診調整
- ・自分の病院の被災状況の確認
- ・他の病院の被災状況の確認
- ・保健所長に病院の被災状況を報告する

《看護師》

- ・職場の安否確認、安全確保
- ・要治療者の受け入れ
- ・健康チェック、バイタルサインの測定
- ・傷の処置
- ・困っていることを聞く
- ・避難者の情報収集
- ・多職種と情報共有
- ・衛生環境を整える

《リハビリ職》

- ・深部静脈血栓症予防の運動
- ・子どもたちと遊ぶ
- ・ストレスがたまらないよう運動指導
- ・指示していただければおしめ交換、調理など何でも手伝う

《訪問看護師》

- ・施設の応援に行く
- ・利用者の被災状況を電話で確認
- ・緊急時訪問

《薬剤師》

- ・薬の調達・相談
- ・衛生、水、感染、汚染の状況確認
- ・栄養補給状況の確認
- ・体調管理
- ・病院と連携

《保健師》

- ・避難所運営
- ・避難所待機
- ・健康チェック
- ・市役所の庁内連携
- ・ローリング作戦訪問

保健所

- ・難病の人、障害者の安否確認
- ・情報提供
- ・人の派遣

《ケアマネジャー》

- ・避難所の把握(トイレのこと、車椅子でも OK か 等)
- ・担当利用者の安否確認
- ・災害地域の把握
- ・必要なサービス調整(緊急ショートステイなど)
- ・医療が必要な人の病院調整
- ・事業所からの報告を受ける
- ・利用者以外の受け入れ

グループワークⅡ

災害時、他の職種に期待する役割は？

《医師》

- ・地域に出向いてほしい
- ・かかりつけ医以外でも診察してほしい

《歯科医師》

- ・義歯の相談
- ・口腔ケアのアドバイス

《薬剤師》

- ・薬を持って逃げられなかった人への対応
- ・お薬手帳の活用
- ・薬の確認
- ・薬を配達
- ・薬の確保
- ・避難所での薬の管理をして欲しい
- ・服薬のアドバイス

病院

- ・医療機関同士の連携を強化し、情報連携、人材調整、薬剤の譲り合い
- ・支援が必要ななら人員を出す
- ・患者の受け入れ調整
- ・行政との連携が密にできる
- ・傷の処置
- ・病院の機能を維持する
- ・避難所の傷病者の把握、受け入れ

《看護師》

- ・健康相談
- ・医療的な処置
- ・必要な判断

《リハビリ職》

- ・避難所での健康体操
- ・動作・移動支援
- ・運動支援
- ・避難所の環境調整
- ・動けない人の補助
- ・運動器一次対応

避難所

- ・医薬品や衛生用品の調達
- ・ラップポントイレの導入
- ・ポータブル電源

《不明(シート上に表記がないため)もしくはすべての職種》

- ・動けない人の搬送
- ・対策本部の立ち上げに協力
- ・対策チームをつくる
- ・電源の確保
- ・情報収集
- ・一人暮らしの高齢者、要援護者、ニーズの確認と必要物品の確保、災害発生場所等
- ・被災者の気持ちに寄り添う
- ・メンタルケア
- ・医療依存の高い人の見極め
- ・避難場所や方法の確認
- ・ライフラインの確保
- ・他の市町村からの傷病者の受け入れ
- ・フードドライブ

《訪問看護》

- ・訪問して病院に状態を報告してほしい

《ケアマネジャー》

- ・難病の方の安否確認
- ・民生委員、福祉委員と情報共有
- ・家族単位での情報の把握・安否確認
- ・受け入れ先を探す

行政

- ・指揮命令
- ・災害用の診療報酬の依頼
- ・災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営
- ・避難所の衛生管理・備品管理
- ・物資の確保
- ・マンパワーの派遣
- ・緊急で受けた人の報酬をきちんともらいたい

【事前準備】

- ・連携が大事
- ・災害時傷病者を把握できる情報ツール
- ・マイナンバーカードを持っておく
- ・ネットでの共有
- ・スマホの活用
- ・LINE の活用
- ・危機感を持つ
- ・事前準備：所属団体に協議する。災害前にネットワークを作っておく
- ・避難所状況の確認ができるアプリ
- ・関係団体間の連絡を密にする
- ・オンライン診療ができる設備づくり
- ・ヘリポートが必要
- ・医師の指示が必要な時にもらえる体制(チャット、LINE、ZOOM など)
- ・自主防災訓練の開催